平曲シンポジウムの開催に当たり

尾崎正忠

平成十九年度の愛知県立大学文字文化財研究所開設に伴い、同所長の犬飼隆先生から連携のお誘いを受け、以後平曲関係資料の保存や平曲演奏会などの諸行事を同研究所と共同して推進してきた。

平成二十一年三月には、同大学の科学研究費補助金基盤研究（S）「戦に関わる文字文化と文物の総合研究」（代表遠山一郎）の一環として、本会の平曲鑑賞会で録画した今井検校勉の語りを平曲譜と同調させたデジタル映像『「平家正節」盲人伝承八句～ライブ映像と検索～』を公開した。また、平成二十二年度以降、数次に渡って平曲鑑賞会を共催するなど、連携事業を推進してきた。今回の平曲シンポジウムも、そのひとつである。

本会の設立は平成十三年十二月に開催した荻野検校没後二百年記念「聞く、見る平曲！」の行事に始まるから、今年は創設十周年に当たる。

本会は創設以来、平曲の保存と普及を目的に掲げて平曲鑑賞会を推進してきたが、平成二十一・二十二年度には文化庁の芸術団体人材育成支援事業「尾崎家本『平家正節』に関する情報交流」、平成二十三年度には文化庁の次代を創造する新進芸術家育成事業「平曲演奏家の育成に関わる基盤整備事業」に採択された。

その間、事業の内容は拡充し、定期的に開催してきた平曲鑑賞会は当道芸能を伝承する名古屋平曲に加えて、武家相伝の津軽平曲の伝承者が参加し、現代平曲の二派共演の鑑賞会が実現した。また、江戸時代に行なわれていた弁天社の奉納平曲会や頓写法会などの模擬行事を通じて、後継者育成への模索も始まった。

未だ、平曲鑑賞会は十八回、妙音会（平曲会）は四回を数えるに過ぎないが、平成二十三年二月には、デジタル版尾﨑家本『平家正節』が公刊されたこともあり、平曲の保存活動に加えて、今後は後継者育成の基盤整備が推進されるものと考える。

今回の平曲シンポジウムは、こうした経緯を経て開催されるものであるから、平曲保存活動の十年の成果を省み、平曲の今日的意義を検証することで、今後の活動の指針を得る機会になれば幸である。

（荻野検校顕彰会代表）